

### 山下公園でトライアスロン!

2015年5月16日、雨のなか、「世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が開催されました。

1年間に世界10都市で開催され、それぞれの大会でのポイント合計してチャンピオンを決めるというものです。スペイン、アメリカ、オーストラリア、ロシアなどから、世界で活躍する選手たちが山下公園に集まりました。

トライアスロンは、「スイム(泳ぐ) 1.5km」「バイク(自転車) 40km」「ラン(走る) 10km」の3つの種目を経て行います。ハッピーローソン付近から氷川丸までの山下公園前の海域を2周泳ぎ、自転車に乗ってコスモワールドまでの9周を走り、そのあとは自転車をおりて神奈川県庁までの4周を走ります。休み時間はありません。

取材をした日は「エリートパラトライアスロンの部」が行われました。「エリート」とは、トップ選手のことをいいます。「パラ」とは、手足や目や耳などが不自由な人たちのグループです。



エリート男子の表彰式(中央が1位のゴメス選手) 【撮影・菊地直人】



集団のまま車のようなスピードで走り抜ける自転車!

「パラトライアスロン」も、3つの種目を行います。手や足を切断した人、目が弱い人、耳が聞こえない人もエリートと同じコースを泳いだり走ったりします。目が弱い人には、動く方向などを伝えるために一緒に泳いだり走ったりする人が付いて、二人一組で競技をします。足の不自由な人は、バイクのときにレース用の車いすを使います。

また、「パラトライアスロン」は体の不自由さによって、さらに5段階に分かれています。なるべく同じくらいのグループに分けることで、公平な状態に近づけるためです。

エリート男子はスペインのゴメス選手(1時間47分00秒)が1位、エリート女子はアメリカのジョーゲンセン選手(1時間57分20秒)が1位になりました。

【菊地直人】

### こども記者紹介

菊地 直人  
横浜市立本牧小学校  
5年



好きなスポーツは水泳とサッカー。  
水泳歴は幼稚園の年少組の頃から始めて8年目で、得意な泳ぎ方はクロール。  
サッカー歴は3年目で、得意なポジションはミッドフィールダー。  
冬はスキーもやっています。パラレルターンがとくいで2年生からやっています。  
小学校の休み時間は、いつも友だちとドッチボールをして遊んでいます。

【横浜市体育協会・吉山博之】

### 給水所の工夫



選手たちが走っている道路のわきにある給水所。テーパーの上には水が入った何本ものペットボトルが置かれている。そして、次々にやってくる選手たちが手を伸ばしてペットボトルを取る。水を飲む選手がいれば、頭から水をかける選手もいる。

選手たちは走っている道路に投げ捨てる。もしもキャップまで投げ捨てたら転んでケガをするかもしれません。そういったことが起こらないようにキャップを外していると思います。細かいところまで気配りしていることで、安心して選手たちが全力を出せる。頑張っているのは選手だけじゃないんだ、と思いました。【菊地直人】

### こども記者事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会との連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われまますが、今回参加したこども記者のみなさんは、「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会  
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、  
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

#### 【協賛内容】

- こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

